

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

108

先日、職場の人に勧められて吾妻郡の浅間隠山に登った。紅葉の時期は過ぎていたが、冬枯れの木立の中で落葉を踏みしめながら歩くのは楽しい。頂上は寒かったけれど、西の浅間山も東の榛名山もよく見える絶景だった。車をちよつと走らせれば、いろいろな山を楽しめるのは群馬に住む者の特権だと思う。

浅間隠山の帰り道

浅間隠山からの帰路、倉淵にある東善寺の小栗上野介のお墓にお参りをした。今年4月に前橋に赴任してから2度目の訪問だが、前回は墓前に手を合

倉淵ゆかりの偉人思う

ただけだった。今回は時間があつたので、線香をたき、遺品やお寺の本堂の展示をゆっくり見学すること

せただけだった。もう一人、帰りに立ち寄った温泉に展示されていた資料で、倉淵ゆかりの偉人がいることを知った。旧倉淵村出身で弁護士や検事を勤めた塚越金次郎氏の

息子、塚越賢爾氏。朝日新聞社の航空部員として、1937年に東京ロンドン間1万5357キロを、94時間で飛ぶという世界最短記録を打ち立てて世界を驚かせた。偉業を達成した飛行機「神風号」には中島飛行機（現在のSUBARU）製の

倉淵ゆかりの2人は、どちらも戦争がその死を早めた。生き残っていたら、それぞれの道でもっと大きな貢献をしたはずだ。いまだに終焉しない

とができた。小栗上野介は、根っからの議論好きの性格と、遣米使節の一員としてポウハタン号で渡米したのち地球を一周して得た経験から、日本が進むべき道を考え、その後の明治時代の産業革命の基礎を作った幕末の偉人だ。

その後、塚越賢爾氏は、第2次世界大戦さなかの44年に、日本に願う。

ウクライナ情勢の報道に触れるたびに、今日も世界の未来を担うべき命が失われていると思う。一日も早く平和な日を迎えることを切



肥後秀明（ひご・ひであき） 1969年生まれ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局審査企画課長兼上席審査役、金融機構局審査運営課長兼上席審査役などを経て2022年4月から現職。